

KRP-WEEK シンポジウム ～社会 起業家があつい～

Part1

開催日	8月1日(月) 13:30～16:15
場所	京都リサーチパーク 西地区 4号館 地下1階 バズホール
【プログラム】	
◆13:30～ 開会挨拶・来賓ご挨拶	
◆13:35～14:15 【基調講演】(40分 質疑応答10分含む) 安部 敏樹 氏 一般社団法人リディラバ代表理事 身近な“未来の考え方”について話そう -ソーシャルビジネス/デザインの今-	
スタディツアーや修学旅行、カンファレンスなどを通して様々な社会問題/地域課題に目を向けてもらう場づくりやメディア事業を行う一般社団法人リディラバの安部代表をお招きし、社会問題解決をオンビジネスで取り組むための考え方や必要な能力、現場におけるソーシャルビジネスの今を講演いただきます。	
<p>◆14:25～16:15 パネルディスカッション 「社会起業家のリアル」</p> <p>【パネリスト】</p> <p>安部 敏樹 氏 一般社団法人リディラバ 代表理事 諒訪 光洋 氏 株式会社ロフトワーク 代表取締役社長 北林 功 氏 COS KYOTO 株式会社 代表取締役 小野 邦彦 氏 株式会社坂ノ途中 代表取締役</p> <p>【モデレーター】</p> <p>兼松 佳宏 氏 勉強家／京都精華大学人文学部 特任講師</p> <p>昨今、社会課題の解決にビジネスとして挑戦する「社会起業家」が脚光を浴びている。今や若い世代にとって“憧れ”的な対象となった一方で、その華やかさの裏側には、地道な、泥臭い、矛盾と葛藤だらけの現場があり、それをくぐり抜けたからこそ、彼らの言葉が感動を生むのだろう。今回はそのような普段あまり語られることのない“リアル”な一面にフォーカスし、さらに一步進んだ、地に足の着いた「社会起業家」像を浮かび上がらせてみたいと思う。(モデレーターより)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「この仕事をしていてよかったです！」と思う成功体験 ・教訓として生かされている、かつての失敗や葛藤 ・事業をスケールさせる(社会に定着する／本流を変える)ために必要なこと ・京都という場所だからこそできること 	
 <p>講師 安部 敏樹 氏</p>	
<p>マグロ漁師／東京大学大学院博士課程 みんなが社会問題をツアーにして発信・共有するプラットフォーム『リディラバ』を2009年に設立。600名以上の運営会員と100種類以上の社会問題のスタディツアーや実績があり、これまで3,000人以上を社会問題の現場に送り込む。また都立中学の修学旅行や企業の研修旅行などにもスタディツアーや提供する。2012年度より東京大学教養学部にて1・2年生向けに社会起業の授業を教える。2014年度からは東大の教員向けに主体的創発を促す講義の仕方についての授業も担当。特技はマグロを素手で取ること。総務省起業家甲子園日本一、学生起業家選手権優勝、第2回若者旅行を応援する取組表彰において観光庁長官賞(最優秀賞)を受賞。</p>	

	<p>1971年米国サンディエゴ生まれ。慶應大学総合政策学部を卒業後、Japan Times 設立のFMラジオ局「InterFM」立ち上げに参画。School of Visual Arts Digital Arts専攻を経て、NYでデザイナーとして活動。2000年、ロフトワークを起業。Webデザイン、ビジネスデザイン、コミュニティデザイン、空間デザインなど、手がけるプロジェクトは年間550件を超える。2.5万人のクリエイターが登録する「loftwork.com」、学びのプラットフォーム「OpenCU」、世界5カ国に展開するデジタルものづくりカフェ「FabCafe」、素材に向き合うコワーキング施設「MTRL(マテリアル)」を運営。</p>
	<p>2002年 大阪市立大学法学部卒業後、大阪ガス株に入社し、京滋地区のエネルギー関連設備の提案営業に従事。2007年 (株)グロービス(東京)に転じ、コンサルタントとして人材育成・組織改革プロジェクトを企画・運営。2010年 同志社大学大学院ビジネス研究科に入学。村山裕三教授が主宰する「伝統産業グローバル革新塾」に学ぶ。2012年 同大学院修了後「COS KYOTO」を創業。地場産業をグローバルな「文化ビジネス」にするためのコーディネート活動を開始。TEDxKyotoの立ち上げに加わり、2014年までディレクターを務める。2016年「Design Week Kyoto」を企画、開催。</p>
	<p>1983年、奈良県生まれ。京都大学に入学後、あちこちを旅する中で、人と自然環境との関係性を問い合わせることに思い至り、有機農業にその可能性を見出す。2年余りの外資系金融機関での“修業期間”を経て、2009年株式会社坂ノ途中を設立。坂ノ途中では「未来からの前借り、やめましょう」というメッセージを掲げ、農薬や化学肥料不使用の農産物販売や自社農場の運営を通じ、環境負荷の小さい農業を実践する農業者を支える仕組みをつくろうとしている。東アフリカでの契約栽培や有機農業の普及活動にも取り組み、2013年には東アフリカ・ウガンダに現地法人 Saka no Tochu East Africaを設立。</p>
	<p>1979年、秋田県生まれ。WebデザイナーとしてNPO支援に関わりながら、「デザインは世界を変えられる?」をテーマに世界中のデザイナーへのインタビューを連載。その後、ソーシャルデザインのためのヒントを発信するWebマガジン「greenz.jp」の立ち上げに関わり、10年から15年まで編集長。2016年、フリーランスの勉強家として独立し、京都精華大学人文学部 特任講師、勉強空間をリノベートするプロジェクト「everyone's STUDYHALL!」発起者として教育分野を中心に活動中。一児の父。</p>
主催	京都リサーチパーク株式会社
後援	公益財団法人京都高度技術研究所、大阪ガス株式会社(予定)
定員	150名
参加費	無料
事前申込の要否	要
お申込み先	KRP-WEEK事務局 お申込みフォームからお申込み下さい https://business.form-mailer.jp/fms/de19e4a143089
お問合せ先	京都リサーチパーク株式会社 営業開発部 TEL:075-315-9333 E-mail: krp-week@krp.co.jp

KRP-WEEKシンポジウム～社会起業家があつい～ Part2

開催日	8月2日(火) 13:00～15:30
場所	京都リサーチパーク 西地区 4号館 地下1階 バズホール
<p>【概要】 京大デザインスクール コラボレーション企画  DESIGN SCHOOL KYOTO UNIVERSITY いま、ここから世界の変革が始まる：協働社会に向けたソーシャルイノベータの挑戦 世界は、今、高度な市場経済から高度な協働社会へと転換する途上にあると言われています。また、それこそが、資源の争奪戦に起因する国際的な緊張を和らげ、持続可能な世界に向かう、唯一の道であるように思われます。このシンポジウムでは、事業創生を先導する企業(野村総合研究所)、グローバルなデザイン企業が生み出した非営利組織(IDEO.org)、地域で活動する非営利組織(場とつながりラボ)から講師を迎え、世界各地で奮闘するソーシャルイノベータの活動を学び、はるかな協働社会を展望します。 </p>	
<p>【プログラム】</p> <p>◆13:00～13:10 Opening Talk 石田 亨 氏 京都大学大学院情報学研究科 教授</p>	
<p>◆13:10～13:50 【基調講演】※同時通訳付き Adam Reineck 氏 IDEO.org デザインディレクター・共同責任者 【The Intersection of Design and the Social Sector】 IDEO.org は、デザインを通じて世界の貧困層や弱者の生活を向上させることを使命に、2011年、世界的なデザイン・イノベーション会社であるIDEOより誕生。今回は、ソーシャルセクター(社会的課題の解決を目的とした持続可能な事業・組織)とデザインの橋渡しについて講演頂きます。また、ミャンマーの小規模農家に新センサー技術を活用、コンゴ民主共和国の少女たちが、さらされているリスクを理解しバースコントロールを行えるよう支援するなど、具体的な事例を通してIDEO.orgの活動を浮き彫りにし、パートナーとより良い協力関係を構築し、世界での社会的インパクトを向上させるため、チームがどのように働き方を変えてきたのかについてもご紹介頂きます。</p>	
<p>◆14:00～15:30 パネルディスカッション Short Talk 齊藤 義明 氏 株式会社野村総合研究所 NRI 未来創発センター2030年研究室室長 【日本の革新者たち－100人の未来創造パターンと地方創生への挑戦－】 NRIで3年かけて取り組まれた「100人の革新者プロジェクト」をご紹介頂きます。ここでの「革新者」とは、社会の様々な領域で、従来のビジネスモデルとは異なる切り口から日本の社会課題を解決し付加価値を創造する創造的経営者を指します。また蓄積された100人の革新者と共に、地方創生のためのイノベーション・プログラムの開発と実践にも取り組まれた概要についてもお話し頂きます。</p>	
<p>嘉村 賢州 氏 特定非営利活動法人 場とつながりラボ home's vi 代表理事 【変革の息吹～よそ者、若者、弱き者から】 ファシリテーターとして10年間、年間100本のワークショップ実施。地域のまちづくりから上場企業の組織変革まで様々な支援活動を通して見えてきたものをご紹介頂きます。日本においては地域の文脈では「よそ者、若者、馬鹿者が大事」、ソーシャルセクターでは「変革は弱いところ、小さいところ、遠いところから」とよく言われておりますが、今回は「よそ者、若者、弱き者」の視点から事例とともにお話し頂きます。</p>	
<p>Discussion 全員</p>	

	<p>1978 年京都大学大学院情報工学専攻修士課程修了。同年日本電信電話公社電気通信研究所入所。1993 年京都大学工学部教授を経て現職。同研究科社会情報学専攻や京都大学デザインスクールなど、分野横断型の教育組織の創設に貢献。この間、ミュンヘン工科大学、パリ第六大学、メリーランド大学、上海交通大学、清華大学客員教授などを経験。電子情報通信学会副会長、情報処理学会、IEEE 各フェロー。日本学術会議会員。マルチエージェントシステムのトップカンファレンス AAMAS の第一回大会委員長、セマンティック Web のトップジャーナル Web Semantics の初代編集長などを務める。デジタルシティ、言語グリッド、異文化コラボレーションなど情報技術と社会をつなぐ研究プロジェクトを推進。</p>
	<p>IDEO.org のデザインディレクター・共同責任者として、これまでに培ったデザイン力でプロジェクトやイニシアチブを主導。IDEO の主任デザイナーとして 8 年間勤務し、米国エネルギー省、NIKE、サムスン、LG、HP、ノースフェイスを含むクライアントの多岐にわたる国際的なプロジェクトを担当。インダストリアルデザインをカリフォルニア芸術大学(California College of the Arts Industrial Design) で学ぶ。</p>
	<p>1988 年野村総合研究所入社。NRIアメリカ ワシントン支店長、コンサルティング事業本部戦略企画部長などを経て、現職。政策立案や企業経営コンサルティングの現場でこれまで 100 本以上のプロジェクトに関わる他、独自の取材により 400 人以上の経営トップとの対話蓄積がある。</p>
	<p>京大農学部卒。京都市未来まちづくり 100 人委員会元運営事務局長。小集団から大規模組織にいたるまで人が集うときに生まれる対立・しがらみを化学反応に変えるための知恵を研究・実践している。今後の活動として、「世界を未来に導く新しい日本型組織論」を発明しようと企んでいる。</p>
<p>講師: 嘉村 賢州 氏</p>	
主催	デザインイノベーションコンソーシアム、京都リサーチパーク株式会社
協力	京都大学 デザイン学大学院連携プログラム
定員	150 名
参加費	無料
事前申込の要否	要
お申込締切	7 月 25 日(月) (定員に達し次第締切)
お申込み先	8 月 2 日 KRP-WEEK シンポジウム Part2 お申込みフォーム
	https://business.form-mailer.jp/fms/de19e4a143089
お問合せ先	京都リサーチパーク株式会社 産学公連携部 山口、柳本
	TEL:075-315-8522
	E-mail: san-gaku@krp.co.jp